

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【プッシュ型支援】

和 プッシュ型支援

【用語解説】

災害時などにおいて、被災地内からの具体的な要請を待たず、必要と思われる人的・物的支援を行うこと。対義語として「プル型支援」という言葉があり、こちらは具体的な要請に対して、見合った支援を行うことをいう。

特に発災超急性期には必要な支援内容を被災地内で把握することが極めて困難である。東日本大震災の教訓を踏まえ、国はプッシュ型支援を行う体制を整備し、熊本地震では発災後早期より国から熊本県に対して多くの支援物資を届けた。

災害医療支援チーム（DMAT）などの医療チームも、発災後超急性期から被災地内に赴き、被災状況や医療ニーズの把握を行うプッシュ型支援の1つである。

送り届けられた人的・物的支援をいかに効率よく適材適所に配分できるかが極めて重要である。

【その他必要事項（本用語とつながりの深い専門分野、関連学会など）】

専門分野：災害医療

関連学会：日本集団災害医学会など

引用：

1. 「内閣府 防災情報のページ プッシュ型支援について」 (http://www.bousai.go.jp/jishin/kumamoto/kumamoto_shien.html)

(国立病院機構熊本医療センター 原田正公)

本誌23p に記載